

言語・行動研究室

1. はじめに

インターネットの普及によって大量の情報が氾濫する現代社会では、個人あるいは組織にとって有用な、かつ必要な情報を取捨選択しなければなりません。また、選択した情報を知識として活用していくために、知識の構造化や再編集が必要です。言語情報処理の分野では、これらの技術が情報抽出、自動分類、要約、機械翻訳、文解析、言い換えなどの基礎技術として研究開発され、また製品として実用化されつつあります。

2. 主な研究テーマ

IBS 言語・行動研究室では現在、下記のテーマを中心に基礎的研究および開発支援を行っています。

- ・ web ページや電子メール、電子化された新聞記事からの情報抽出

- ・ 情報検索
- ・ 自由回答アンケートにおける回答の意図抽出および自動分類
- ・ 現代語における敬語使用動向の調査・分析
- ・ 推敲・校正支援システムのための文のわかりやすさの研究
- ・ 電子化辞書の作成・保守
- ・ 各種言語処理システムの辞書・文法記述

「ことば」は情報の構成要素というだけでなく、そのもっとも重要な機能は「コミュニケーション手段」です。言語・行動研究室では、さらに幅広い活動を目指し、様々な分野で「ことば」に関する調査研究を行いたいと考えています。